第六十二回神宮式年遷宮

天皇陛下の御聴許を賜り 本格的準備へ

いよいよ、平成二十五年御斎行の第六十二回神宮式年遷宮の御準備が開始された。

皇室の御祖神・天照大御神をお祀りし、悠久の歴史を超えて古の神祭りの心を今に伝え続ける伊勢の神宮。神宮の最大の祭りである式年遷宮の本格的な準備が、このほど天皇陛下の「御聴許」（お聞き届け給うこと）をいただいて進められることになった。

ご存知かと思いますが、「式年遷宮」、「伊勢の神宮」について簡略に触れておきます。

式年遷宮、「式年」とは「定まった年」を意味し、ここでは二十年ごとに定められた年を指します。「遷宮」とは、新しいお宮をお造りして、大御神さまにお遷りいただくことです。

伊勢の神宮には内宮・外宮とも、東と西に同じ広さの敷地があり、二十年ごとに、同じ形式の社殿を新しく造り替えます。さらに、大御神さまがお召しになる御装束御神宝も新しく作り替え、神殿にお遷りいただくお祭りが式年遷宮です。神宮には、御正宮のほかに十四の別宮があり、これらのお宮も新しく造り替えられます。

伊勢の神宮は、正式には「神宮」といいます。神宮は、皇室のご祖先である天照大御神をおまつりする皇大神宮（内宮）と、天照大御神のお食事をつかさどり、衣食住をはじめ産業の守り神である豊受大御神をおまつりする豊受大神宮（外宮）とを中心に、その両宮に属する別宮・摂社・末社・所管社を含めた百二十五の宮社の総称です。これらの宮社は内宮・外宮の域内をはじめ、三重県伊勢市およびその周辺市町村に鎮座されています。また内宮と外宮の距離は五キロほどあります。

皇大神宮（内宮）正殿

第62回式年遷宮 主要祭典と行事

平成十七年「山口祭」

造営にあたり、最初に執り行われる祭儀です。造営用材を伐採する「御杣山」の山口に坐す神を祭ります。古例のまま皇大神宮は神路山、豊受大神宮は高倉山の山麓で行われます。

「木本祭」

新宮の床下に奉建する「心御柱」の御料木を伐採するにあたっ

て、木本に坐す神を祭ります。深夜、両宮域内の山中で行われる秘祭で、物忌と称する子供が忌斧を執って御料木奉伐の儀を行います。

「御杣始祭」

伐採を始めるにあたり、まず御神体をお納めする「御樋代」の御料材を伐採する祭儀。御料木の立つ祭場で安全を祈願した上で、古作法で切り倒されます。

「御樋代木奉曳式」

御杣山で伐採した御樋代の御料木は、沿道の各地で盛大な歓迎を受けながら伊勢に陸送されます。到着した御料木は、皇大神宮は五十鈴川を溯り神域に曳き揚げられ、豊受大神宮は外宮北御門から神域に入り、それぞれ五丈殿前に置かれます。

「御船代祭」

「御樋代」をお納めする船形の「御船代」の用材を伐採する祭儀です。内宮と外宮の両宮域内に祭場を定め木本の神をまつり、物忌の童男童女が草木を刈り初め、小工が伐採の式を行います。

平成十八年（以下祭典名称のみ）

「御木曳初式」

「木造始祭」

「御木曳行事」［第一次］

「仮御樋代木伐採式」

平成十九年

「御木曳行事」［第二次］

平成二十年

「鎮地祭」

平成二十一年

「宇治橋渡始式」

平成二十四年

「立柱祭」

「御形祭」
「上棟祭」
「檐付祭」
「甍祭」

平成二十五年

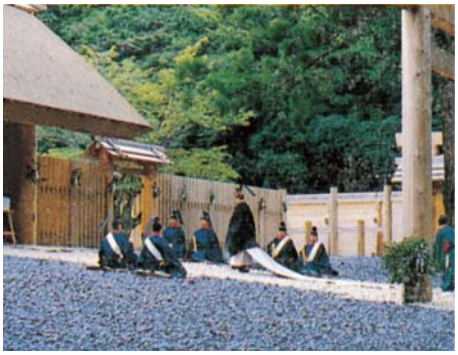
「お白石持行事」

「御戸祭」
「御船代奉納式」
「洗清」
「心御柱奉建」
「杵築祭」

「後鎮祭」

「御装束神宝読合」
「川原大祓」

「御飾」
「遷御」
「大御饌」
「奉幣」



「古物渡」
「御神楽御饌」
「御神楽」

神宮式年遷宮は精神的な意義とともに文化的な意義も大きいと言える。内宮・外宮の御正宮は、神社建築の中でも最も古い様式の一つであると言われる「唯一神明造」で、二十年ごとの遷宮では、古代の社殿を違わず再現する造営が繰り返され、現在に伝わっている。

また、神々の衣類や調度品である千五百七十六点の御装束・御神宝も、奈良時代頃の規格、材質、技術を頑なに守り、遷宮の時代ごとの名工・名人が制作にあたり、日本民族の心（精神）と文化（伝統）を連綿と継承している。

豊受大神宮（外宮）正殿　神宮司廳提供